

序

尾田政臣先生には、2014年3月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生の積年の功績を称え、深い感謝の意を表するため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

尾田先生は、1971年3月に北海道大学工学部電気工学科をご卒業後、同大学院に進学され、博士課程を単位取得退学された後、1979年に「多入力多出力線形フィードバック制御系の設計に関する研究」という論文によって工学博士の学位を取得されました。1976年に電電公社（現NTT）武蔵野電気通信所に入所され、大阪大学などの非常勤講師もお務めになった後、1997年に本学文学部人文総合科学インスティテュートの教授として就任されました。その後本年に至るまで、合わせて17年という長い期間を本学の教育・研究・行政に力を尽くしてこられました。この間、人文総合科学インスティテュートおよび心理学専攻の主任をお務めになり、学部・大学・大学院の発展に寄与されてきました。とくに人文総合科学インスティテュート「人間と情報」領域の発展、および同組織を改組しての文学部心理学科の創設に際しては多大のご尽力をなされ、文学部での認知科学領域など自然科学系領域の定着に貢献なさいました。

一方、先生は、日本心理学会、日本認知心理学会、電子情報通信学会など多くの学会でご活躍され、ご専門の認知心理学研究で数多くのめざましい成果を挙げておられます。とりわけ、顔や表情に関わるヒューマンインタフェース、図形や音楽などから受ける印象などを扱う感性などのご研究では、学界からも第一人者の一人として評価されてきました。先生のご業績については、本論集の「主要著書・論文目録」に詳しいので繰り返しません、「日本語文書交換用ファイル仕様調査委員会」委員、「ヒューマンタイプメンタルテクノロジーの開発とその応用環境整備調査委員会」委員など、幅広い社会のご活躍も特筆すべきことだと思います。

さらに、先生は、その教育・研究を通して優秀な研究者・教育者などを沢山お育てになりました。次の時代の認知心理学研究を担う人材が、先生の教えを受け、広く活躍しています。

尾田先生は、普段はもの静かな方で知られていますが、大変責任感の強い方で、ご自身の関係される分野が取り扱われる際には必ず発言される方として知られています。教授会でそうしたお姿を拝見された方も多いと思いますが、大変厳しいご意見に接し、あらためて先生の一貫したご姿勢に感嘆した次第でありました。

こうした意味からも、新たに心理学系新学部が茨木キャンパスで開設される準備が進んでいる只中であって、先生がご定年を迎えられることは残念でなりません。文学部教授会は、永年のご貢献に謝意を表するため、来る4月1日付で先生に名誉教授の称号をお贈りするよう、手続きを進めています。今後とも、わたくしども後進を見守り、文学部や心理学系新学部へのご助言をいただければ幸いです。

2014年1月24日

立命館大学人文学会会長

文学部長 桂 島 宣 弘

